

## 水鳥生息調査結果

### (1)目的

江東区環境基本計画に基づき、野鳥の生息調査を実施することにより、区内の水鳥生息状況を定期的に把握し、野生生物保護と生態系保全の基礎資料としています。

### (2)調査期間

平成 18 年 6 月から平成 19 年 2 月まで

### (3)調査地域

表 12-1 平成 18 年度 水鳥生息調査地域

No	調査地域	調査地域の特性
1	都立亀戸中央公園	旧中川沿いの都市公園
2	都立猿江恩賜公園	横十間川沿いの都市公園
3	仙台堀・横十間川親水公園	江東内河川沿いの親水公園
4	荒川（新木場）周辺	大きな河川とその河川敷の水辺公園
5	豊洲運河（越中島）周辺	大きな河川とその河川敷の水辺公園
6	若洲調整池	若洲ゴルフ場浸出水の調整池

### (4)調査方法

定点センサス法またはロードセンサス法により観察される水鳥の種類と出現数を記録しました。なお、本調査ではカイツブリ科、ウ科、サギ科、ガンカモ科、クイナ科、チドリ科、シギ科及びカモメ科の 8 科に属する野鳥を水鳥としました。

### (5)調査結果

#### 概要

出現した水鳥の種類は 23 種類でのべ 14,853 羽でした。科別では、出現したのは 7 科であり、カイツブリ科 2 種類 12 羽、ウ科 1 種類 342 羽（出現率 2.3%以下同じ）、サギ科 4 種類 62 羽（0.4%）、ガンカモ科 10 種類 13,659 羽（92.0%）、クイナ科 1 種類 25 羽、シギ科 1 種類 15 羽及びカモメ科 4 種類 738 羽（5.0%）でした。ガンカモ科の水鳥が出現種類及び出現数ともに最大となり、本区の冬季の水鳥を代表することがわかりました。

出現した上位 5 種類は、ホシハジロ 10,901 羽、カルガモ 720 羽、ユリカモメ 663 羽、オナガガモ 581 羽、キンクロハジロ 569 羽の順であり、ホシハジロだけで出現率が 73.4%となり、これら上位 5 種類で出現総数の 90.4%に達しました。

いっぽう、シギ科の出現数は合計で 15 羽（0.1%）と少ないことがわかりました。

#### 月別調査結果

##### ア．6月

出現種類 10 種で 226 羽であり、この時季は水鳥が少なく、カモ類では、カルガモが

仙台堀・横十間川親水公園で 52 羽、その他の地域で 6 羽、キンクロハジロが仙台堀・横十間川親水公園で 1 羽出現しましたが、おそらく渡りをせずに越冬した個体と思われます。カルガモは繁殖していることが確認されました。カワウは 4 地域で出現し、豊洲運河で 118 羽でした。豊洲運河で夏鳥であるコアジサシが計 14 羽出現しました。

#### イ．9月

出現種類 9 種で 271 羽であり、6 月と比べて 1 種類減少しましたが、出現数は 45 羽増加しました。カモ類はカルガモが 62 羽、キンクロハジロが 1 羽出現しました。秋のシギ・チドリの渡りの季節ですが、年間を通じて観察されるイソシギ 4 羽以外は出現しませんでした。カモメ類ではウミネコが豊洲運河で 7 羽、荒川で 44 羽が出現しました。越冬のため南下する途中と考えられます。

#### ウ．12月

出現種類 20 種で 3,529 羽であり、9 月と比べて 11 種類、出現数は 3,258 羽増加しました。これはカモ類などの水鳥が越冬のために区内の水辺に飛来したことによります。とくにカモ類は 9 月が 2 種類、63 羽であったのに対して 12 月は 10 種類、3,226 羽に激増しました。出現数の上位 3 種は、ホシハジロが 1,991 羽、キンクロハジロが 313 羽、オナガガモが 263 羽でした。カルガモは 6 月と 9 月には 60 羽ほど出現しますが、冬季には区外からの越冬組が加わって、夏季の 2 倍以上の 159 羽出現しました。また、内湾に生息するカイツブリ類のカンムリカイツブリが 3 羽出現しました。サギ類も 4 種類出現しました。冬になると水辺は野鳥でにぎやかとなります。

#### エ．1月

出現種類 19 種で 4,988 羽であり、12 月より 1,459 羽増加しました。このうちカモ類は 10 種類ですが、出現数は 4,542 羽で 12 月より 1,316 羽増加しました。カモ類の構成はホシハジロが 3,829 羽、カルガモが 196 羽、オナガガモ 153 羽でした。ホシハジロが 12 月より 1,838 羽増加しました。カモメ類では、ユリカモメが 376 羽出現し、12 月より 135 羽増加しました。カンムリカイツブリも 12 月に続いて 4 羽出現しました。

#### オ．2月

出現種類 17 種で 5,839 羽であり、調査期間中で最大となりました。1 月と比べて 2 種類減少しましたが、出現数は 851 羽増加しました。これはホシハジロが 1 月と比べて 1,252 羽増加し、5,081 羽出現したためです。カモメ類では、ユリカモメが 46 羽でした。カンムリカイツブリは 3 ヶ月続いて出現し、2 羽でした。

#### 地域別調査結果

##### ア．亀戸中央公園

年間で 10 種、669 羽が出現しました。公園東端を流れる旧中川の河川敷の整備により親水機能が向上した結果、12 月から 2 月までの冬季にカモ類やユリカモメが集まるようになりました。とくにオナガガモが多く見られるのがこの地域の特徴で、12 月には 156

羽が出現しましたが、1月には37羽、2月には2羽と減少しました。他の地域でよく出現するカルガモは6月に1羽のみ出現しました。ユリカモメが1月に261羽が出現しました。

#### イ．猿江恩賜公園

年間で6種、542羽が出現しました。公園内に3ヶ所の池があり、また東側に横十間川があるため冬季にカモ類が集まります。オナガガモが年間292羽出現してもっとも多く、ついでカルガモ95羽、キンクロハジロが49羽出現しました。例年、コガモが少数出現しますが、18年度は出現しませんでした。また、公園北側の池にユリカモメが12月と1月に出現しました。

#### ウ．仙台堀・横十間川親水公園

年間で9種、598羽が出現しました。冬季に「野鳥の島」周辺や、その西側の仙台堀川にカモ類が多く出現します。もっとも多いのはカルガモで、年間を通じて出現し、12月に89羽が出現しました。カルガモは初夏に繁殖しています。つぎに多いのはキンクロハジロで、12月に60羽が出現しました。その他ホシハジロが少数出現しました。カモ類以外では、ゴイサギ、アオサギカワウ、ユリカモメなどが出現しました。

#### エ．豊洲運河（越中島周辺）

年間で18種、1,415羽が出現しました。調査した6カ所の中で出現した水鳥の種類が最も多く、7種類のカモ類のほか、カワウ、サギ類、オオバン、シギ類、カモメ類が出現しました。

カモ類ではホシハジロが12月に221羽、キンクロハジロが12月に168羽、ヒドリガモが12月に57羽、オナガガモが2月に45羽、内湾に生息するスズガモが12月に30羽出現しました。他の地域では多く観察されるカルガモはここでは多くなく、最大出現数は9月に10羽でした。

カモ類以外ではオオバンが比較的多く、1月に15羽出現した。シギ類では、昨年度に出現したキョウジョシギ、ハマシギは出現せず、イソシギのみ出現しました。ウミネコは6月と9月に、ユリカモメとセグロカモメは冬季に出現しました。カワウは年間を通じて出現し、最大数は6月に118羽でした。またアオサギが年間を通じて出現しました。

#### オ．荒川(新木場)周辺

年間で16種、611羽が出現しました。ここは荒川の河口にあたり、内湾の水鳥が出現するのが特徴です。出現したカモ類は7種類で、スズガモが12月に190羽、ヒドリガモが12月に44羽、オカヨシガモが12月に47羽が出現したほか、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、ホシハジロが出現しました。

内湾に生息するカンムリカイツブリが毎年冬季に数羽出現しますが、18年度も12月、2月に2~4羽出現しました。このほかのカイツブリ類は12月にカイツブリ1羽が出現しました。

カモ類以外では、9月にウミネコが44羽、サギ類でダイサギとコサギが1~10羽出現しました。また、イソシギが6~1月に8羽出現しました。カワウは年間を通じて1~23羽出現しました。

#### カ．若洲調整池

年間で14種、11,018羽が出現し、調査した地域の中でもっとも出現数が多く、17年度の8,773羽から大きく増加しました。ここは周囲を木立で囲まれた調整池で人が立ち入らないので、冬季にはたくさんのカモ類が飛来して絶好の休息地となっています。ホシハジロが多いのが特徴で、2月に5,010羽、12月に3,703羽が出現しました。その他のカモ類としてはカルガモが2月に160羽、マガモが12月に63羽、オカヨシガモ、マガモ、コガモ、キンクロハジロ、スズガモ、ハシビロガモのカモ類計9種が出現しました。

カモ類以外ではカイツブリ、コサギ、アオサギ、オオバンが出現しました。

#### 6年間の経年変化

##### ア．カイツブリ類

毎年2~4種、12~51羽が出現しました。カンムリカイツブリが比較的多くなっています。全水鳥に対する出現率は0.2~0.6%でした。12~13年度は30羽以上が出現しましたが、それ以降は減少しています。

##### イ．ウ類

カワウのみ出現しました。出現率は2.3~6.3%でした。12年度から14年度にかけて増加し715羽となり、その後は減少し、300羽程度出現しています。

##### ウ．サギ類

毎年4~5種が出現しました。出現率は0.4~1.0%です。コサギ、ゴイサギ、アオサギが多く出現し、ダイサギ、チュウサギはまれに出現しています。15年度から出現数が増加しましたが、18年度は減少しています。

##### エ．カモ類

水鳥の中ではカモ類の出現率ももっとも高く、67~92%を占めました。出現数は17、18年度は1万羽を超えました。なかでもホシハジロが多く、40~80%を占めていて、18年度はホシハジロだけで1万羽を超えました。オナガガモは13年度の1,484羽を最高に以降減少しています。カルガモは出現数が562~685羽で、経年変化があまりありません。

##### オ．シギ・チドリ類

シギは7種、チドリは1種が出現し、出現数は多い年で100羽程度であり、少数でした。これは本区は長い海岸線に恵まれながらも、シギ・チドリが好む干潟の部分が極めて少ないことによるものであると考えられます。18年度はとくに減少しています。

##### カ．カモメ類ほか

カモメ類は3種、それとアジサシ類のコアジサシが出現しました。カモメ類の出現数

は14,15年度をピークにその後大きく減少しています。

コアジサシは日本で繁殖する夏鳥ですが、近年生息数が大きく減少しています。本調査では0~16羽のみ出現しました。繁殖は確認されませんでした。